

英語科学習指導案

日時 平成28年2月22日(月) 5校時

児童 3年生

授業者

場所

1 単元名 「友達をさそおう」

2 単元について

(1) 単元観

本単元では、“Let’s ～.”という勧誘する表現に“baseball, tennis, soccer, dodgeball, tag, hide and seek, jump rope, catch.”を組み合わせた様々な遊びに誘う表現と、“Sure.” “No sorry.”といった、承諾したり、断ったりするための表現を扱う。これらの表現を繰り返し聞いたり、言ったりする様々な活動を通して身に付け、友達を誘う場面の中で進んで表現できるようにすることを目指している。

単元の序盤は、新たな会話表現である勧誘する場面の表現と出会い、それらを身に付けていくための活動を行う段階である。特に“Let’s ～.”と勧誘する表現は相手との会話のやりとりがつながる表現なので、聞く、まねる、言う活動の際には、友達同士でかかわり合いながら身に付けていくことができる。単元の中盤からは、勧誘する表現と、承諾したり、断ったりする表現を用いて友達を遊びに誘う場面を作成していく。疑似的な遊びに誘う場面でありながらも、新たに学んだ表現の中から児童が伝えたいことを選択して伝えられるため、本当のコミュニケーションに近い場面を再現することができる。また、「友達を誘う」という題材が児童にとって身近な場面なので実際の遊びの経験を想起しやすく、それぞれの遊びを象徴する動きが明確なこと、単元終盤に行う伝える場では、その題材が友達を誘うという、児童にとって身近な場面であることから、既習と新出の表現を自分たちで組み合わせることに適している単元である。

(2) 児童観

省略

3 単元目標

ゲームなどの様々な活動を通して Let’s ～.などの勧誘する表現や、承諾したり断ったりする表現を身に付け、それらの会話表現を使って友達を遊びに誘う場面を考えたり、積極的に表現したりできる。

4 評価規準及び道徳的学び

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	コミュニケーションを 支える技能	言語や文化に関する気付き	道徳的学び
既習の表現と“Let’s ～.”などの新たに学んだ表現を組み合わせ、友達を遊びに誘う会話表現を進んで表現している。	ア Let’s ～.などの新たに学んだ会話表現を聞いたり、言ったりしている。 イ 既習の表現と新たに学んだ会話表現を組み合わせ、友達を誘う場面を考えている。	友達を誘う場面を比較し、日本語と英語の遊びの言い方の違いや新たに学ぶ会話表現に気付いている。	2-(1) 礼儀誘いを承諾したり、断ったりする際の礼儀の大切さに気付く。

単元の序盤

I 状況的興味の喚起・維持を促すために

【会話表現との出会いの工夫】

“Let’s ～.”という勧誘する表現と“baseball, tennis, soccer, dodge ball, play tag, hide and seek, jump rope, catch.”などを組み合わせて遊びに誘ったり, “Sure.” “No sorry.”などと受け答える場面と何度も出合わせる。様々な遊びに誘う場面を映像で見ることによって以下の気付き促すようにする。

- ・遊びを表す表現は日本語と似ている音のものと、全くことなるものがある。
- ・繰り返し出てくる“Let’s ～.”という表現が誘う時に使う表現である。
- ・本単元で新たに学ぶ表現は誘う時の表現と、承諾したり断ったりする表現である。

①会話表現の意味を予想したり、その内容に興味をもったりし、新たに学ぶ表現に気付く子ども

単元の序盤
中盤

II 個人的興味の出現を促すために

【会話表現を身に付けていくための活動の工夫】

聞く活動、まねる活動、言う活動（インプット→アウトプット）の順になるように活動構成の工夫をし、十分に会話表現に触れながら身に付けていくようにする。その際、比較しながらよく聞く、そっくりにまねる、思い出して言うなども大切な要素である。また、それぞれの活動で教師のフィードバックを挟み、児童ができるようになったことに自信をもって進んで伝えられるようにする。以下に具体的な活動を示す。

- ・聞く活動（ジェスチャーゲームで聞いた遊びのジェスチャーをしたり、教師が Let’s play ○○. などと遊びの名前を言い、聞こえた遊びの絵に○をつけたりする。）
- ・まねる活動（“Let’s ～.”の表現と“baseball, tennis, soccer, ….”などの単語をチャンツで言う。速さを変えたり、音の大きさを変えたりする。）
- ・言う活動（ステレオゲーム、ポイントゲームによって友達とかかわる活動を多くすることで、言うことを楽しみながら会話表現を言う。）

②新たに学んだ会話表現を進んで伝える子ども

単元の中盤
終盤

III 発達した個人的興味の出現を促すために

【新たに学んだ会話表現を用いて伝える場の設定】

友達を遊びに誘う場面を発表する場を設定する。この設定により、ミッキー先生に向けて発表するという壁と、会話表現の場面に4人が登場するという壁を与える。壁の一つめによって、子どもたちは1年間英語を教えてもらったミッキー先生に向けて、最後の授業で成長した姿を見せるためには、この1年間で習ってきた既習を使わなければならないという思考がはたらくと考える。壁の二つめでは、1対1のやり取りではなく、4人のグループでやり取りを行うという場面設定により、必然的に表現を増やさなければならないような状況が生まれる。これらの場の設定が、少し頑張れば乗り越えられる丁度良いハードルとなると考える。

III-(1) 内的活動の高まりを促すための工夫

【壁を乗り越える思考の焦点化】

場面の中で、4人をどのように登場させるかはグループによって異なることから、いくつかのグループを抽出して発表させることで、4人の会話のやりとりの多様性に気付かせるようにする。その上で、もっと様々な既習を使いたいという思考が働くよう、1年間の既習の表現を想起させ、新たに学んだ会話表現と既習の表現を結びつけて作れそうな会話表現を全体で共有する場を設ける。その後、グループごとに既習の表現を可視化したカードを渡し、新たに学んだ表現と結びつけて考えられるようにしていく。

③できたことを実感し、進んで会話する子ども

6 単元の指導計画

時	主な学習活動	教師の働きかけ	評価
1	<ul style="list-style-type: none"> Let's play～.などの遊びに誘う会話表現に何度も出合い、意味を予想したり、単元で新たに学ぶ会話表現に気付いたりする。 課題を把握する。 遊びに誘う言い方を言えるようになるろう！ 聞く、まねる、言う活動を通して、単語や会話表現を身に付けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 共通の会話表現を使って場面を変えて何度も出合わせることによって、表現の意味を予想しやすくしたり、新たに学ぶ会話表現に気付きやすくする。Ⅰ 聞く・まねる・言う活動の構成順にし、人とかかわりながら、楽しんで身に付けていくように設定する。Ⅱ 	<p>気</p> <p>技ア</p>
2 本 時	<ul style="list-style-type: none"> 前時の復習（勧誘する表現や承諾したり断ったりする表現）をする。 課題を把握する。 エイゴノチカラを使って、友達を遊びにさそってみよう！ 遊びに誘う場面を4人で作る。 ミッキー先生に成長したところを見てもらいたいという思いをもつ。 既習の表現と新たに学んだ表現を組み合わせ、友達を遊びに誘う場面を考え練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> テンポよく確認し、後半の時間を十分に確保できるようにする。 伝える場で、ミッキー先生に伝えることと、4人で場面を作成することの提示によって、既習の表現を使ったり、会話表現の数が増え、多くの表現を使ったりするよう思考を促す。Ⅲ 複数のグループの発表により、人物の登場の仕方の多様性に気付かせたり、既習の表現と新たに学んだ会話表現を結びつける前に既習の表現を想起させたりするため、全体で共有できる場を設定する。Ⅲ-（1） 既習の表現を結びつけることができるように、表現をカードに可視化しておく。Ⅲ-（1） 	<p>技イ</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> 課題を把握する。 エイゴノチカラを使って、友達を遊びにさそってみよう！ 発表に向けて、グループで練習をする。 聞き手（ミッキー先生）を意識しながら発表する。 自分達の発表や他のグループの発表を終え、振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前に発表する態度や聞く態度について確認しておく。 教師やミッキー先生からのフィードバックによって、できていることに価値付けを図る。 子どもたちが課題点を感じて終えるのではなく、これまでに色々な活動を通して新たに学んだ表現を身に付けたことや、壁を乗り越えて発表できたことを実感できるような振り返りの場を設ける。 	<p>関</p>

7 本時について（2/3時間目）

（1）研究とのかかわり

本時においては、主に研究の視点Ⅲにかかわって、手立てを講じていくことになる。

手立てⅡによって子どもたちが新たに学んだ会話表現を自信をもって聞いたり、言ったりできるようになったあと、手立てⅢを講じる。手立てⅢでは、遊びに誘う会話表現を使った場面を作り、「エイゴノチカラを使って、友達を遊びにさそってみよう！」という課題で伝える場を設定する。児童は、次時のミッキー先生との最後の授業で、1年間英語を学んで成長した姿を見てもらいたい、聞いてもらいたいという思いを基に今まで習ってきた表現を活用するという壁と、今まで主にやってきた1対1のコミュニケーションによって相手に伝えるということではなく、4人が登場する会話表現の場面の会話を考えることによって、多くの表現を使うことが必要であるという壁に気付けるようにする。

また、手立てⅢ-（1）では、既習の表現と新たに学んだ会話表現を結びつける場の設定により、子どもたちがより思考を焦点化しながら会話表現を構成していくことをねらいとしている。そのためには、Ⅲを講じた段階で、4人の会話表現をどのように割り振り、どのように登場させるかはグループによって異なるという多様性に気付かせるために、会話表現の役割分担が異なる班を抽出して発表させる。その上で、何を既習から使ったのか、他にどんな既習の表現が使えるかを想起する場を設定する。その後、各グループにおいて、既習の表現と新たに学んだ表現を結びつけていくことができるように、各グループが既習の表現をカードに可視化したものを用いることができるようにしておく。これらの2つの視点によって、会話表現がより豊かに再構成されるようにしていく。

(2) 本時の目標

既習の表現と Let's ~.などの新たに学んだ会話表現を組み合わせ、友達を誘う場面をグループで協力して考えることができる。

(3) 本時の展開

○児童の主な学習活動	□教師の働きかけ・留意点 肯 自己肯定感	評価 個に応じた指導 (△発展的▲補充的)
<p>○前時の学習を復習する。</p> <p>Let's play ~. Sure. No, sorry.</p> <ul style="list-style-type: none"> 誘う時の言い方は Let's ~.だったね。 色々な遊びを誘えるようになったな。 <p>○課題を把握する。</p> <p style="text-align: center;">エイゴノチカラを使って、友達を遊びにさそってみよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達を遊びに誘う場面を4人で作るんだね。 エイゴノチカラを使ってということは、今まで習ったことを生かしていくとよさそうだね。 次の授業でミッキー先生が来るのが最後なんだね。エイゴノチカラを使って、ミッキー先生に成長したところを見せられたらいいな。 <p>○場面作りに取り組み、場面を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 4人で作るなんて初めてだね。 これまで習ったことを組み合わせるといいね。 元気よくいたり、わかりやすくジェスチャーをつけたりすればいいんじゃないかな。 <p>A: Hi, ○○. B: C・D: Hi, ○○. A: How are you? B: C・D: I'm good. A: Let's play soccer. B: C・D: Sure! A: Let's go. B: C・D: Yes! Let's go.</p> <p>A: Hi, ○○. B: Hi, ○○. A: How are you? B: I'm great. A: OK! Let's play tag. B: Sure! A・B: Hi, ○○. C・D: Hi, ○○. A・B: How are you? C・D: I'm great. A・B: Good! Let's play tag. C・D: Sure!</p> <ul style="list-style-type: none"> いろんな登場の仕方があるんだね。 あまり習ったことを使えていないなあ。 今まで習ったことを組み合わせると難しいな。 これまでどんなことを習ったのかしっかりと確認したいな。 Do you like ~?は誘う前に入れられそうだな。 初めて会う人だったら Nice to meet you.から始められるね。 断った後には、I'm tired.って伝えればいいね。 	<p>□前時までに学習した表現を復習し、自信をもって本時の活動に臨めるようにする。</p> <p>□次時にミッキー先生に伝えること、会話表現を使った場面を1対1ではなく、4人が登場する場面として設定することで、少し難しいけれど、できそうだな、やってみたいという思いを高め、意欲的に取り組めるようにする。Ⅲ</p> <p>□4人の登場の仕方が異なるグループを複数見せることで、4人でいろいろなかわり方ができるようにする。Ⅲ-(1)</p> <p>□その上で、挨拶などの既習の表現を使っていることを取り上げることで、既習の表現が、もっと使えそうなことに気付くことができるようにする。Ⅲ-(1)</p> <p>□さらに、既習の表現を想起させたり、既習の表現と新たに学んだ表現を組み合わせたりできるように思考を焦点化する。Ⅲ-(1)</p>	<p>▲不安な表現がある児童は、その表現をみんなと一緒に声を出して確認するよう促す。</p> <p>△4人の登場の仕方が1対3以外のグループを発表させ、価値付けを図る。</p>
<p>○登場の仕方を工夫することや、既習の表現と新たに学んだ会話表現を組み合わせることを考え、場面を再構成する。</p> <p>A: Nice to meet you. B: Nice to meet you, too. A: How are you? B: I'm good. A: Do you like soccer? B: Yes, I do. A: Let's play soccer. B: Sure. A: Hi, ○○. C: Hi, ○○. A: Hi, ○○. D: Hi, ○○. A: Let's play soccer. C・D: Sure. A: Let's go. B・C・D: OK!</p> <ul style="list-style-type: none"> 今まで習ったことをこうやって組み合わせることができるんだね。 よし、これで完成したよ。発表に向けて練習しよう。 みんなで作っていくって楽しいな。 <p>○本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> Do you like ~?とか、今まで習ったことを使えたからよかった。 今まで習ったことと新しく習ったことを組み合わせることができてよかった。 4人で話すのが初めてだから難しかったけど、4人でたくさん会話できたから嬉しいな。 Let's ~.を使って、友達を遊びに誘う場面を考えられたよ。次の時間に早くミッキー先生に見てもらいたいな。 	<p>□新たに学んだ会話表現と結びつけられるように、既習の表現をカードに可視化したものを各グループに渡す。Ⅲ-(1)</p> <p>肯既習の表現を効果的に使っているグループを紹介し、全体の見本として、紹介されたグループが自信をもてるようにする。</p> <p>肯既習の表現と新たに学んだ表現を組み合わせることができたことを自覚させ、次時への意欲を高めるようにする。</p>	<p>【技イ～観察・発言・ワークシート】</p> <p>△意味の通った会話表現になるように既習の表現を多く組み合わせることを勧める。</p> <p>▲会話が広がらないグループについては、どの既習の表現を使うとよいのか一緒に考えるようにする。</p> <p>▲既習の表現の数を増やすことのみならず、働かせているグループには、会話の流れを考えて意味のあるやりとりをするよう投げかける。</p>